

薬の購入に関する意識と実態調査報告書（抜粋）

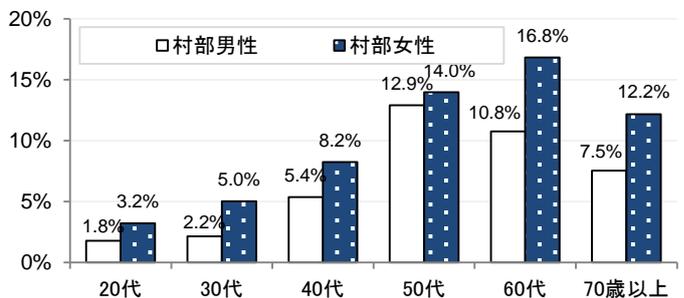
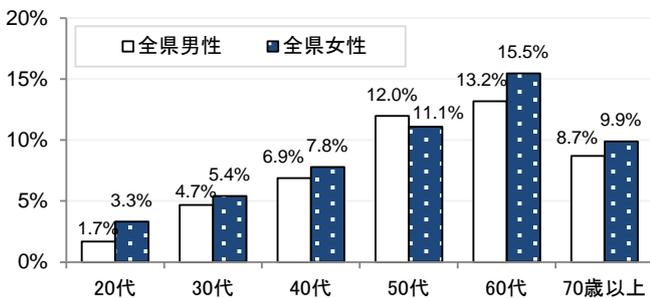
I 調査の設計

- ▽調査対象 ・長野県内在住の成人男女3000人、長野県内の村部成人男女500人
- ▽抽出方法 選挙人名簿から無作為抽出
- ▽調査時期 2013年2月1日～26日
- ▽調査方法 郵送
- ▽有効回収数 ・全県1669件（回収率55.6%）男性786人 女性883人
・村部279件（回収率55.8%）男性113人 女性166人

回収サンプルの内訳

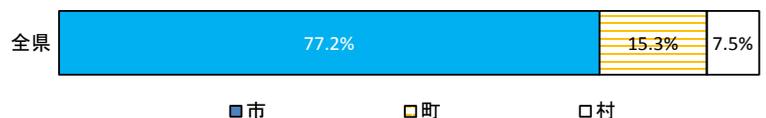
【性別と年代】

		全体	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
全体	全県	1669	83	168	245	385	478	310
		100.0%	5.0%	10.1%	14.7%	23.1%	28.6%	18.6%
村部	279	14	20	38	75	77	55	
		100.0%	5.0%	7.2%	13.6%	26.9%	27.6%	19.7%
男性	全県	786	28	78	115	200	220	145
		47.1%	1.7%	4.7%	6.9%	12.0%	13.2%	8.7%
村部	113	5	6	15	36	30	21	
		40.5%	1.8%	2.2%	5.4%	12.9%	10.8%	7.5%
女性	全県	883	55	90	130	185	258	165
		52.9%	3.3%	5.4%	7.8%	11.1%	15.5%	9.9%
村部	166	9	14	23	39	47	34	
		59.5%	3.2%	5.0%	8.2%	14.0%	16.8%	12.2%

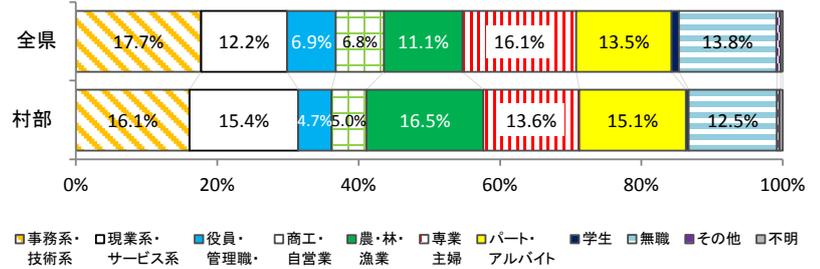


【市町村別】

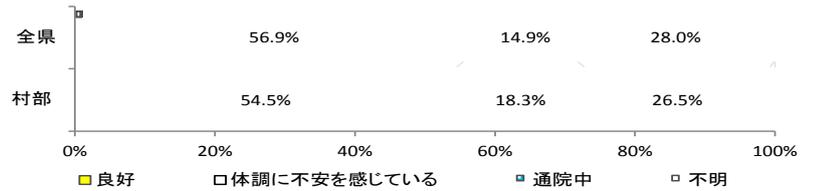
	全県	村部
市	1288	-
町	256	-
村	125	279
	77.2%	100.0%



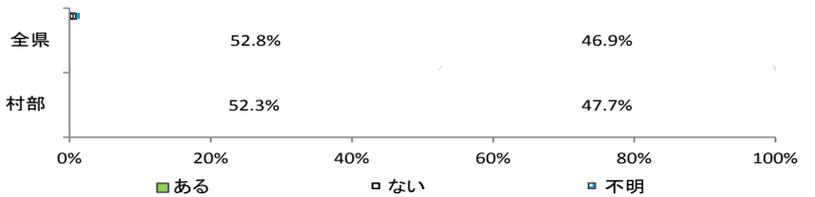
【職業】	全県	村部
事務系・技術系従事者	295 17.7%	45 16.1%
現業系・サービス系従事者	204 12.2%	43 15.4%
役員・管理職・自由業	115 6.9%	13 4.7%
商工・自営業	113 6.8%	14 5.0%
農・林・漁業	185 11.1%	46 16.5%
専業主婦	269 16.1%	38 13.6%
パート・アルバイト	226 13.5%	42 15.1%
学生	16 1.0%	1 0.4%
無職	231 13.8%	35 12.5%
その他	10 0.6%	1 0.4%
不明	5 0.3%	1 0.4%



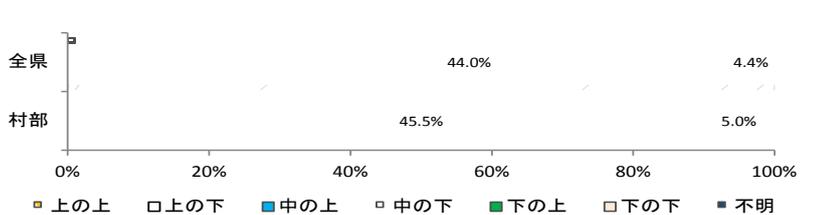
【健康状態】	全県	村部
良好	949 56.9%	152 54.5%
体調に不安を感じている	248 14.9%	51 18.3%
通院中	468 28.0%	74 26.5%
不明	4 0.2%	2 0.7%



【薬の服用】	全県	村部
ある	881 52.8%	146 52.3%
ない	782 46.9%	133 47.7%
不明	6 0.4%	-

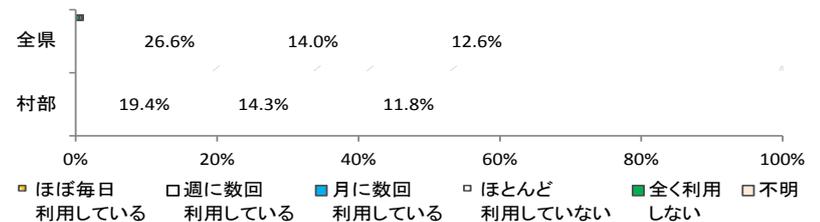


【暮らし向き】	全県	村部
上の上	4 0.2%	-
上の下	24 1.4%	3 1.1%
中の上	553 33.1%	73 26.2%
中の下	735 44.0%	127 45.5%
下の上	260 15.6%	55 19.7%
下の下	74 4.4%	14 5.0%
不明	19 1.1%	7 2.5%



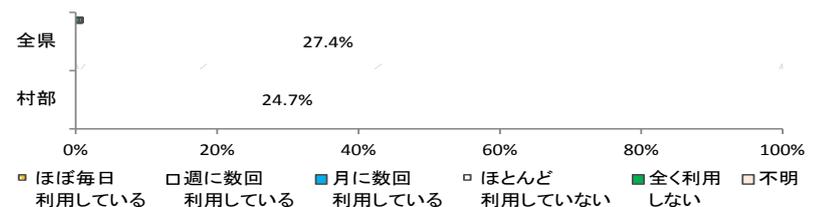
【インターネットの利用状況】

	全県	村部
ほぼ毎日利用している	444 26.6%	54 19.4%
週に数回利用している	233 14.0%	40 14.3%
月に数回利用している	165 9.9%	21 7.5%
ほとんど利用していない	210 12.6%	33 11.8%
全く利用しない	616 36.9%	130 46.6%
不明	1 0.1%	1 0.4%



【インターネットで通信販売を利用するか】

	全県	村部
ほぼ毎日利用している	2 0.1%	1 0.4%
週に数回利用している	22 1.3%	1 0.4%
月に数回利用している	343 20.6%	47 16.8%
ほとんど利用していない	457 27.4%	69 24.7%
全く利用しない	843 50.5%	160 57.3%
不明	2 0.1%	1 0.4%



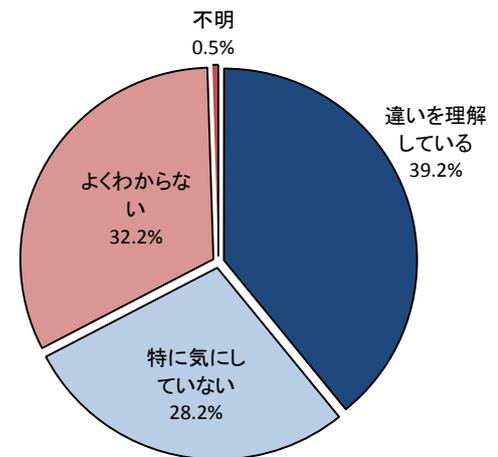
II 調査の概要

医薬品や健康食品の購入（問1～11）

「健康食品」と「医薬品」の違い 「理解している」39%

「違いを理解している」が39%で、「よくわからない」32%、「特に気にしていない」28%と3分した形になった。50代で「理解している」が43%とやや高いほか、インターネットで通信販売を月に数回以上利用している人は、半数以上が「理解している」と回答。

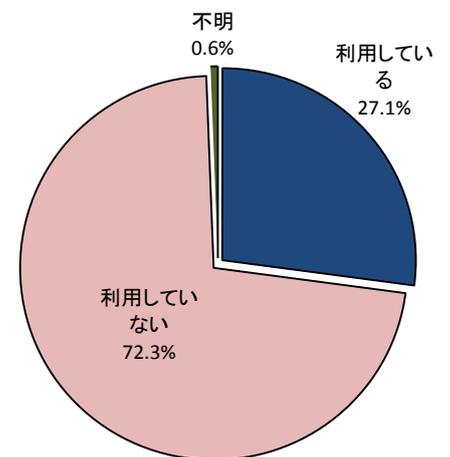
全県調査と村部調査の比較では、村部で「理解している」が35%とやや低い。



健康食品の利用 「利用している」4人に1人

健康食品を定期的に「利用している」と回答した人は27%で、「利用していない」の72%を大きく下回った。属性別にみると「利用している」が高いのは女性（31%）、50代（31%）専業主婦（34%）、パート・アルバイト（31%）。

全県調査で「利用している」が27%で村部では20%、「利用していない」が全県の72%に対し村部で80%と、それぞれ7～8ポイント差。

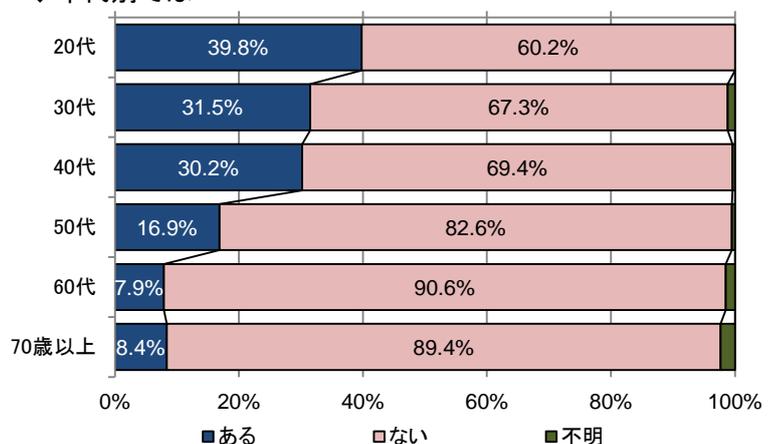


インターネットでの購入 若年層ほど購入経験「あり」が高く

インターネットで医薬品や健康食品、化粧品などを購入したことがあるか聞いたところ「ある」は17%、「ない」が82%だった。20代で「ある」が40%、30代では32%と若年層で購入経験のある人が多い。職業別では「ある」が事務系・技術系従事者（28%）、学生（25%）で高め。

村部で「ある」は13%と全県に比べて低め。

◆年代別では



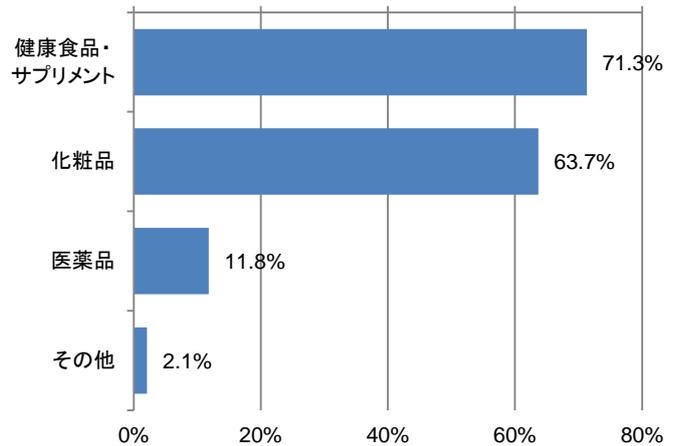
インターネットで購入したもの

「健康食品」7割 若年層は「化粧品」トップ

インターネットで購入経験が「ある」と回答した人に対し購入したものを複数回答で聞いた。トップは「健康食品・サプリメント」が71%、2番手には「化粧品」が64%で続き、「医薬品」は12%にとどまった。

男性で「健康食品・サプリメント」(85%)、女性で「化粧品」(82%)が高い。20代~40代では「化粧品」が最も高く、60代で「健康食品・サプリメント」と「医薬品」が高め。

村部で「化粧品」(68%)が全県に比べてやや高い。

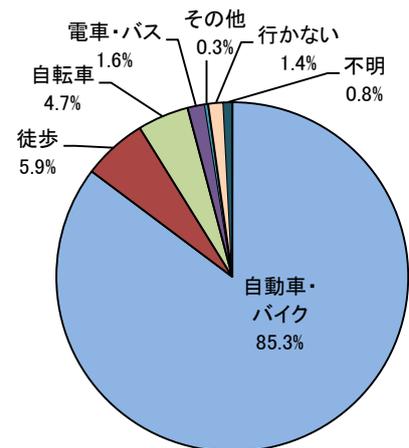


薬局・ドラッグストアへの交通手段

「自動車・バイク」85%

自宅から最寄りの薬局やドラッグストアへの交通手段で最も高かったのは「自動車・バイク」の85%で、他の選択肢は全て1桁台にとどまる。属性別で大きな差はみられないが、70歳以上で「自動車・バイク」が76%と他の年代に比べ低く、「徒歩」が9%とやや高め。

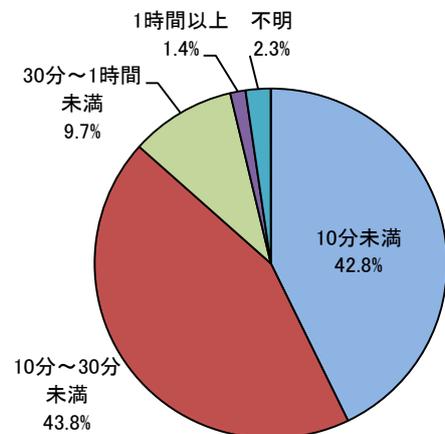
全県で「徒歩」「自転車」が、村部で「自動車・バイク」「行かない」がわずかに高い。



薬局・ドラッグストアまでかかる時間

村部で「30分以上」27%

「10分~30分未満」が44%で最も高く、次いで「10分未満」が43%。全県の市部で45%が「10分未満」と回答したのに対して、村部では「30分~1時間未満」が25%、「1時間以上」の4%と合わせて29%が30分以上かかるとしており、地域差が大きい。

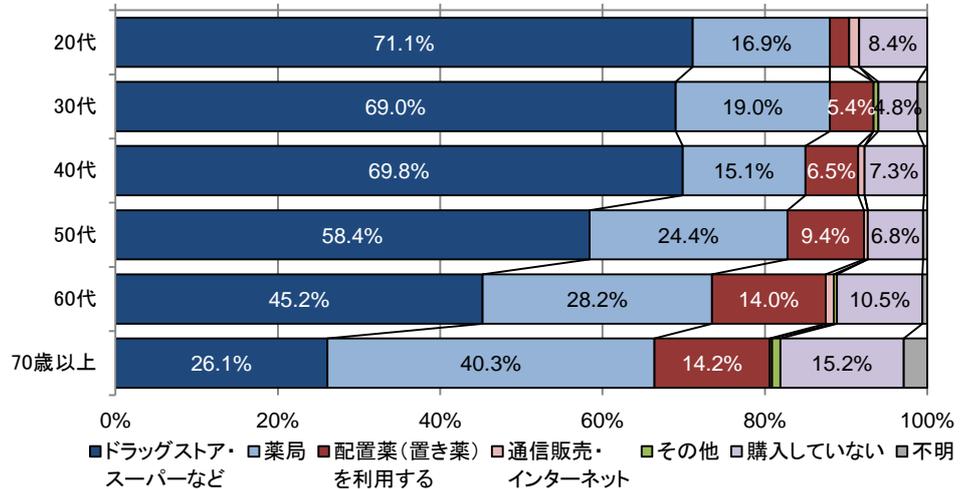


どこで薬を購入するか 「ドラッグストア・スーパーなど」半数超

薬の購入先について、最もよく利用するものを1つ選んで回答してもらったところ、「ドラッグストア・スーパーなど」が半数超の52%とトップで、2番手には「薬局」が26%、「配置薬」が10%で3番手に入った。「通信販売・インターネット」は1%に満たなかった。20代～40代の若年層で「ドラッグストア・スーパーなど」が約7割と高く、70歳以上では「薬局」が約4割で最も高い。60代～70代で「配置薬」がやや高めの14%台。

ふだん薬を服用している人で「薬局」が36%、服用していない人で「ドラッグストア・スーパーなど」が63%と高い。村部調査では「ドラッグストア・スーパーなど」が49%、「購入していない」が13%と全県より高め。

◆年代別では

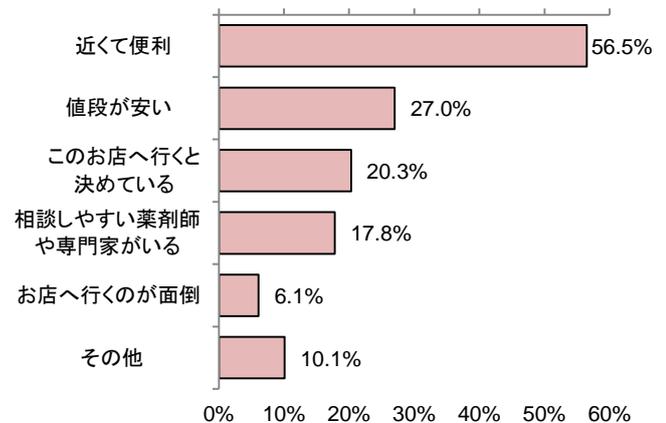


薬の購入によく利用する理由 「近くて便利」57%

薬を購入しているところをよく利用する理由を複数回答で聞いた。「近くて便利」が57%でトップで、以下「値段が安い」(27%)、「このお店に行くと決めている」(20%)、「相談しやすい薬剤師や専門家がいる」(18%)と続いている。

年代が低いほど「近くて便利」が高く20代で74%に上る。一方、「相談しやすい薬剤師や専門家がいる」は高齢層ほど高く70歳以上で32%。

村部では「近くて便利」は45%にとどまる。

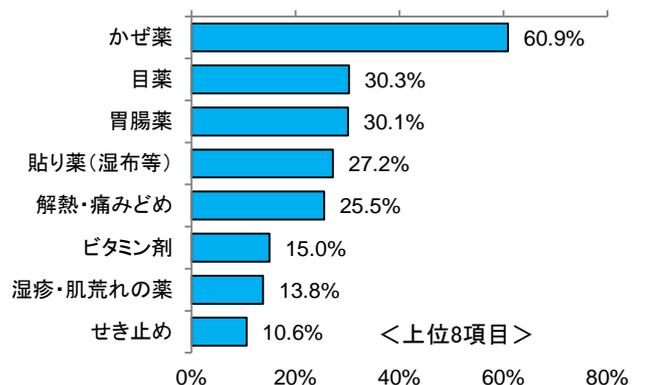


購入した薬 「かぜ薬」トップ 「貼り薬」「解熱・痛みどめ」は年代で差も

購入した薬の種類を3つ以内で挙げてもらったところ、「かぜ薬」が61%でトップで、30ポイント差の2番手には「目薬」(30%)が入った。僅差の3番手は「胃腸薬」((30%)で、以下「貼り薬」(27%)、「解熱・痛みどめ」(26%)と続く。

高齢層ほど「貼り薬」が高く70歳以上で34%、「解熱・痛みどめ」は若年層で高く20代では2番手に入る49%。

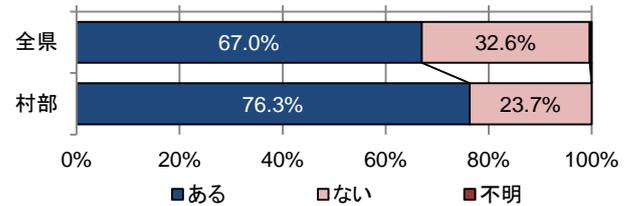
村部で「貼り薬」が31%、「湿疹・肌荒れの薬」が18%と高め。



配置薬 「ある」全県 67% 村部で高めの 76%

家庭に配置薬が「ある」と回答したのは67%で、「ない」の33%を大きく上回った。全県調査の市部で「ある」が65%だったのに対して村部では76%と高い。全県の職業別で見ると農・林・漁業では85%に上る。

配置薬の使用頻度で最も多かったのは「数か月に1回程度」の33%で、月に1回以上使っている人は合わせて26%と4人に1人。

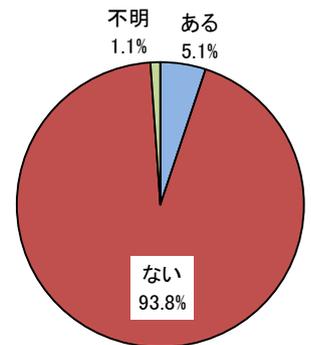


副作用について (問 12~16)

副作用の経験 「ない」94%

薬を用いた際に副作用など体調に影響があったか尋ねたところ「ある」は5%、「ない」は94%とほとんどの人が「ない」と回答した。属性別では20代(16%)、学生(13%)といった層で「ある」が高め。

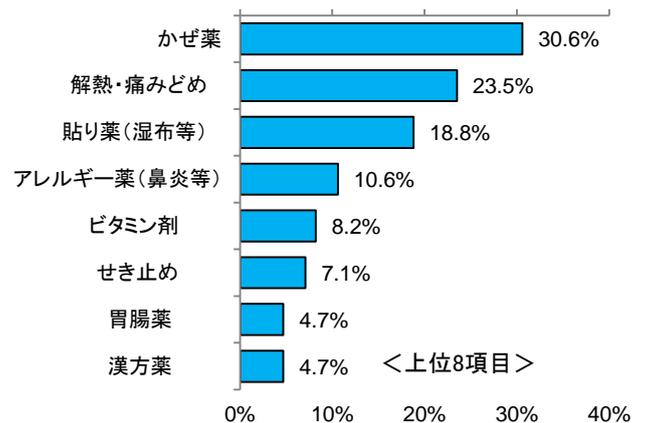
全県と村部では大きな違いが見られなかった。



副作用のあった薬 「かぜ薬」31%

問12で副作用が「ある」と回答した人にどのような薬を用いた際に体調に影響が出たか複数回答で聞いた。

最も高かったのは「かぜ薬」(31%)で、次いで「解熱・痛みどめ」(24%)、「貼り薬」(19%)、「アレルギー薬」(11%)となった。男性でかぜ薬(38%)、女性で「解熱・痛みどめ」(34%)が高い。



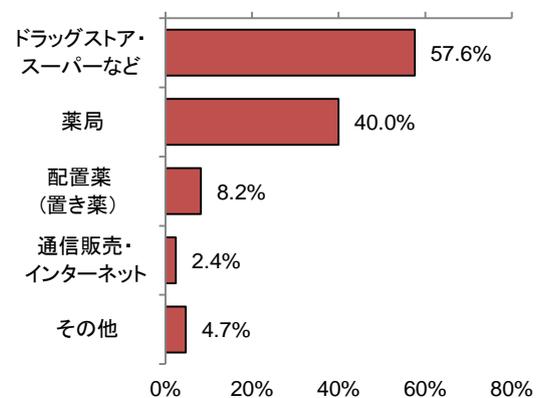
副作用の原因となった薬をどこで購入したか

副作用の原因と思われる薬をどこで購入したか聞いたところ、「ドラッグストア・スーパーなど」が58%で最も高く、2番手には「薬局」が40%、「配置薬」が8%で続く。「通信販売・インターネット」は2%だった。

全県の市部で「ドラッグストア・スーパーなど」が63%と高い。

体調に影響が出た際に相談した先では「病院・診療所」が34%でトップ。「購入したお店」は9%で、以下「家族や知人」(6%)、「購入以外の薬局やドラッグストア・スーパーなど」(2%)と続く。

「ドラッグストア・スーパー」58%



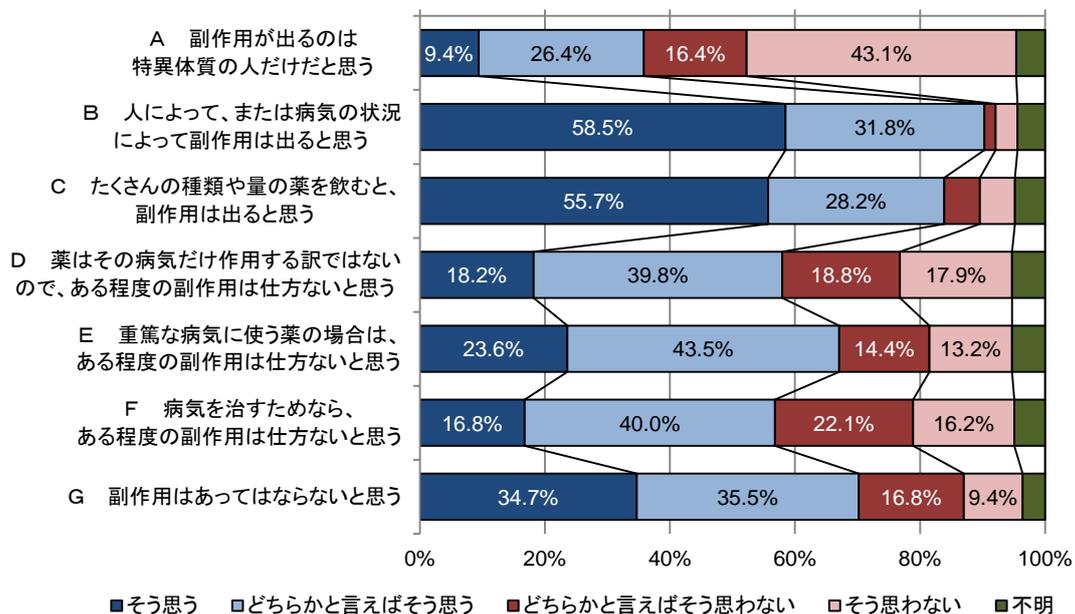
副作用に対する考え 副作用はあってはならない「そう思う」35%

副作用についてどのように考えるか、7項目にわたって尋ねた。

「人によって、または病気の状況によって副作用は出ると思う」の問いに「そう思う」が59%、「どちらかと言えばそう思う」の32%と合わせて最多の90%が肯定的に答えている。「たくさんの種類や量の薬を飲むと、副作用は出ると思う」は「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計で84%と2番目に高い。

「副作用はあってはならないと思う」では「そう思う」の回答が35%、「どちらかと言えばそう思う」と合わせて7割を超えた。70歳以上で「そう思う」が47%と高いのが目立つ。

村部でも「副作用はあってはならないと思う」で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」は合わせて72%。



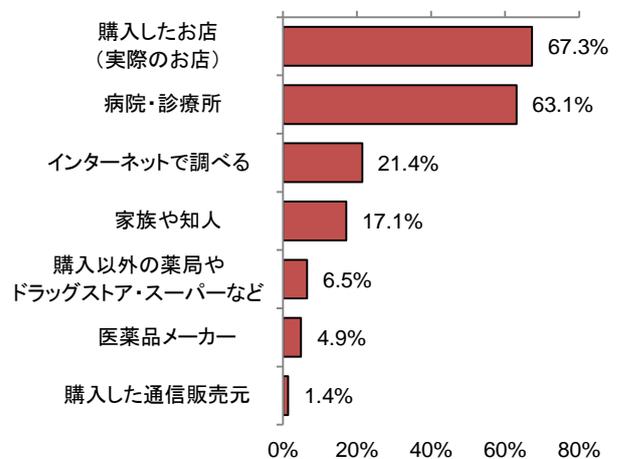
薬の相談・説明について (問 17~19)

薬に関して相談する相手は 「購入店」「病院・診療所」6割台

薬についてわからないことや困ったことがあった場合どこに相談・問い合わせするか2つ以内で答えてもらったところ、「購入したお店」が67%で最も高く、4ポイント差の2番手には「病院・診療所」(63%)が入った。3番手は「インターネットで調べる」(21%)で、以下「家族や知人」(17%)、「購入以外の薬局やドラッグストア・スーパーなど」(7%)、「医薬品メーカー」(5%)と続いている。

年代別では「病院・診療所」は70歳以上で82%と高く、「インターネットで調べる」は20~40代の若年層で高い。

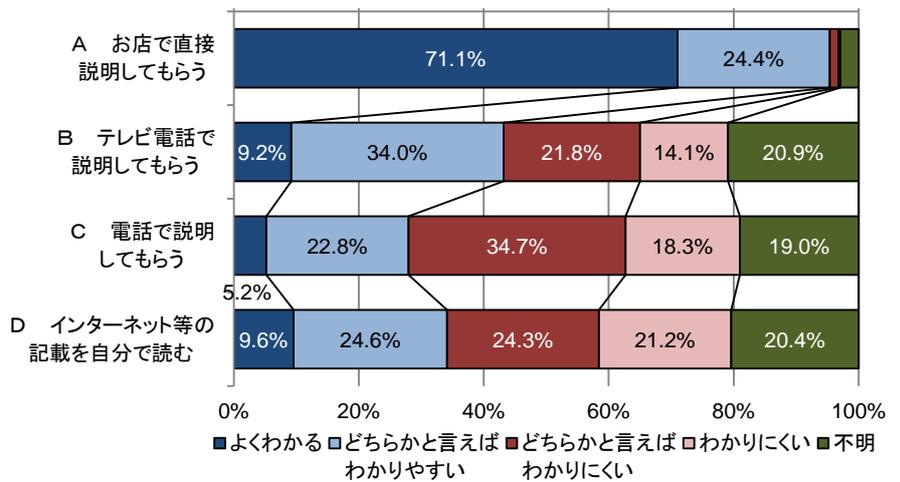
村部で「病院・診療所」が70%と高く、「インターネットで調べる」が18%と低め。



わかりやすい説明方法 お店で直接「よくわかる」7割

薬の服用方法などを説明してもらうときにどのような方法がわかりやすいか4項目について聞いた。「お店で直接説明してもらう」場合に「よくわかる」が71%と高いが、他の「テレビ電話で説明してもらう」「電話で説明してもらう」「インターネット等の記載を自分で読む」では「よくわかる」は10%に満たず、70歳以上で不明（無回答）が半数を超えている。

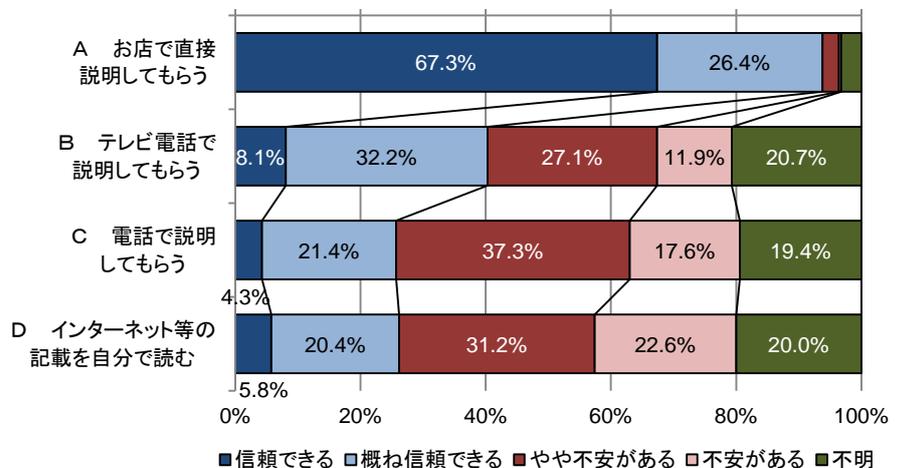
全県と村部で大きな差は見られないが、「テレビ電話で説明してもらう」「電話で説明してもらう」「インターネット等の記載を自分で読む」は村部で「よくわかる」が低め。



信頼できる説明方法 テレビ電話・電話・インターネット 信頼度低く

どのような説明方法が信頼できるか、問18と同様に4項目で尋ねた。「お店で直接説明してもらう」は「信頼できる」が67%と高かったが、「テレビ電話で説明してもらう」(8%)、「電話で説明してもらう」(4%)、「インターネット等の記載を自分で読む」(6%)と他の項目ではかなり低い。

村部で「お店で直接説明してもらう」の「信頼できる」が71%と高い。



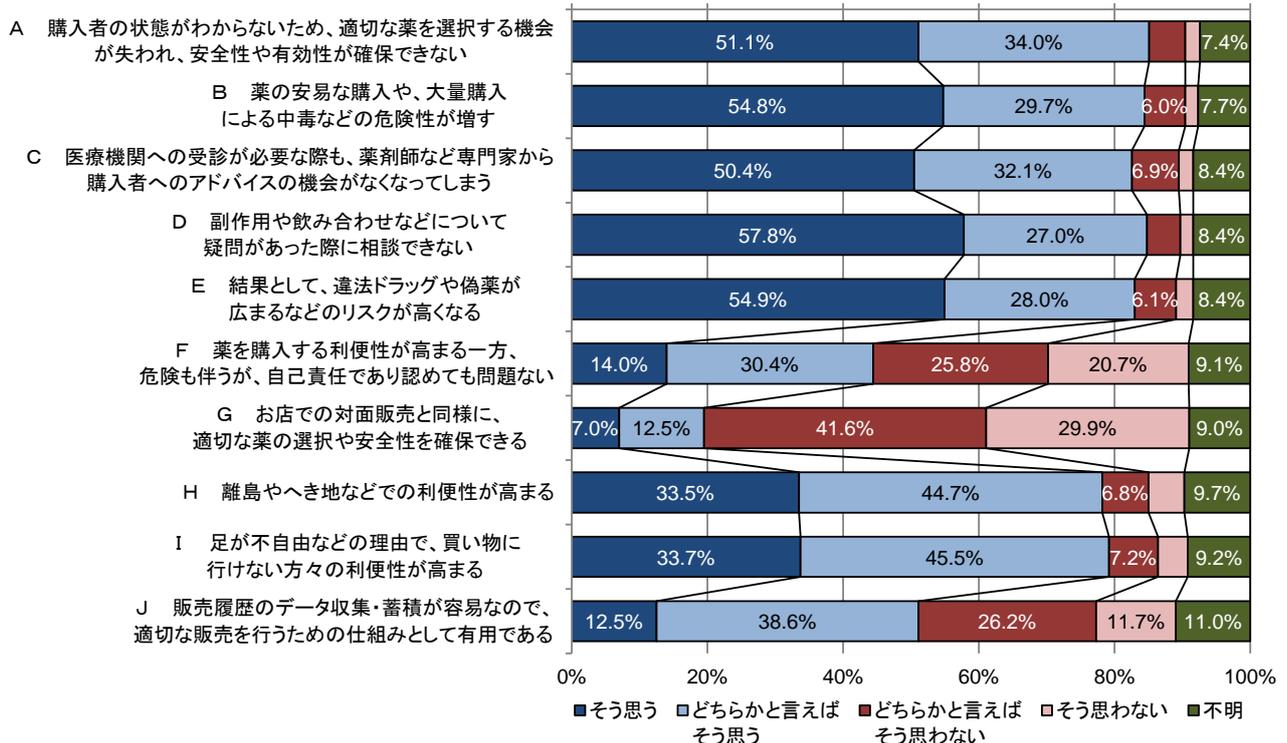
インターネットでの薬販売について（問 20～21）

インターネットでの薬販売 安全性や有効性確保できない「そう思う」半数

薬のインターネットなどによる販売について、10項目で考えを聞いた。

「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計で最も高かったのは「購入者の状態がわからないため、適切な薬を選択する機会が失われ、安全性や有効性が確保できない」の85%で、農・林・漁業で「そう思う」が61%と高め。同列の2番手は「副作用や飲み合わせなどについて疑問があったときに相談できない」が85%で、「そう思う」は最多の58%。

「離島や僻地などでの利便性が高まる」と「足が不自由などの理由で、買い物に行けない方々の利便性が高まる」はともに「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計が8割近くに上る。



インターネットで薬を購入したいか

「購入したいとは思わない」52%

インターネットなどによる販売を通して、薬を購入したいと思うか尋ねたところ「購入したい」は3%で、「場合によっては購入したいと思う」の17%と合わせて約2割にとどまり、過半数の52%が「購入したいとは思わない」と回答した。

年代別では40代で「購入したいと思う」「場合によっては購入したいと思う」の合計が最も高く4割を超える。一方高齢層では否定的な評価が高く、70歳以上で「購入したいとは思わない」「あまり購入したくない」が合わせて8割以上に上る。

村部で「購入したい」「場合によっては購入したい」合わせて15%と低め。

◆年代別では

